

## サンゴジュハムシ

春から夏にかけてサンゴジュやカンボクの葉を食い荒らす。春の間はイモムシ（幼虫）、最大長約10mm、夏は甲虫（成虫）になり葉を食べる。最大長約7mm。

葉に穴を開けて食害する。庭木などでしばしば多発する。



1. 幼虫，体長6.5mm。3の被害木上。



2. 成虫，体長6.5mm。1の幼虫を飼育。



3. 被害。1994/6/7。美咲市，庭のサンゴジュ。

【学名】 *Pyrrhalta humeralis*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ハムシ科（Chrysomelidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；中国。

【特徴】

成虫，幼虫ともにニレハムシやイタヤハムシに似るが，加害樹種が異なる。

【生態】

サンゴジュの他にニワトコやガマズミにもつく。

卵で越冬。幼虫は新芽の頃に孵化する。葉に穴を開けて食べる。5月末～6月中旬頃に十分成長し，土中に潜り蛹になる。2～3週間で成虫が羽化し，葉を食害する。秋に若枝に卵をまとめて産み付ける

## 【被害と防除】

庭などのサンゴジュで多発する。食害により木が枯れた例は知られていない。

枝先で卵で越冬するので、秋から冬の間には枝先を刈り込むことである程度駆除できると考えられるが、効果のほどは確かめられていない。

農薬による駆除が必要と判断される場合、サンゴジュハムシ用の農薬であるアセフェート液剤、MEP液剤などを使用する。農薬は取扱説明書に従って使用すること。薬剤散布にあたっては通行人や近くの住民等に十分配慮すること。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

サンゴジュハムシ hamusi/sangoju/

kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/7/27.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG, 1higai.JPG

「写真1～2」原秀穂，北海道立林業試験場，1994.